

Rational software

IBM Rational Requirements Composer

ハイライト

- 分散しているチームがリアルタイムに状況に基づいたコラボレーションやコミュニケーションを行えることにより、利害関係者とデリバリー・チームが一体化
- 複数の視覚的技法やシナリオ主導型技法を使用して、ビジネスおよびテクノロジーのプロフェッショナルがソリューションの定義に集中できるように支援
- 要求情報の編成、保管、検索が容易なため、ソリューション品質の改善と市場投入までの時間の短縮を実現
- 簡潔な情報でより的確な意思決定をサポートし、一貫性のある要求プロセスを推進
- IBM Rational RequisitePro との統合により、開発作業およびライフサイクル管理アクティビティとビジネス・ニーズが合致する、包括的な要求定義および管理ソリューションの実現を支援

成功する要求定義と管理を実現

世界中の組織は、常に進化するビジネス目標に合致する、高品質の製品およびサービスを迅速にデリバリーするというプレッシャーに直面しており、このプレッシャーは高まり続けています。しかし、複数の要因が、依然、この目標の達成を困難にしています。

エグゼクティブは、プロジェクト・チームと組織の戦略ビジョンの足並みを揃えようと奮闘しています。利害関係者は、自らのニーズをより大規模なソリューションのコンテキストで定義しようと必死になっています。そして、プロジェクトアナリストやマネージャーは、アクティブなコラボレーションを促進して、すべての関係者を1つにまとめ、成功を共有できるように努力しています。こうした難しさに輪をかけているのが、今や、多くのチームが地理的に分散しているという現実であり、コラボレーションは今まで以上に困難になっています。

チームでソフトウェア要求を定義することは、バンドで曲を書くことに似ています。どちらの活動にもスキルとコラボレーションのバランスが必要です。そして、さまざまな部分を調和させることに集中的に多くの努力を払って、部分部分の寄せ集め以上の成果がもたらされるようにする必要があります。

IBM Rational® Requirements Composer は、製品およびサービス開発チームをコラボレティブなプラットフォーム上に統合し、シンプルながら強力な技法およびプロセスを使用してビジネス・ニーズを収集、編成、分析することで、ソリューションについて合意に至ることができるようにする要求定義ソリューションです。

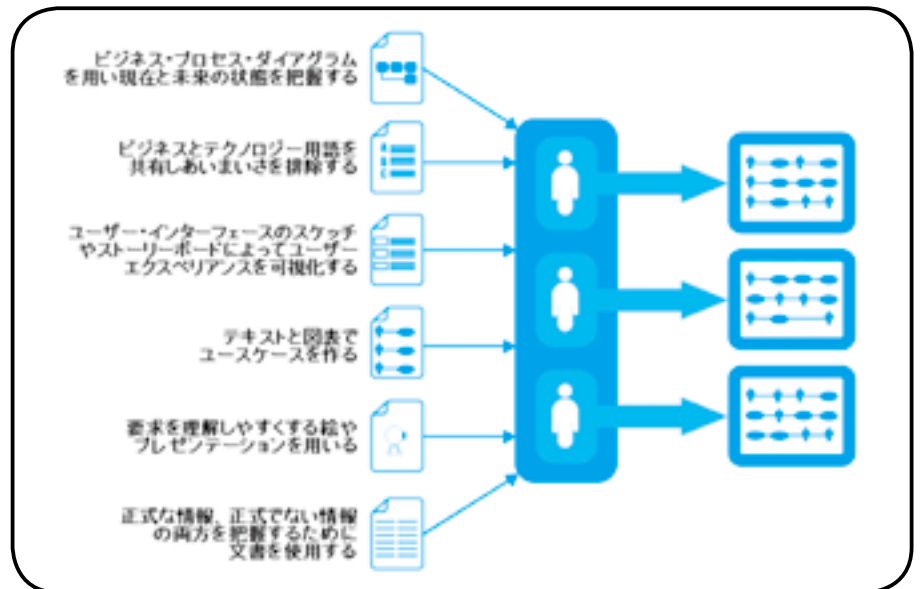
要求情報を1カ所で共有できるようにし、ビジネス、ユーザー、システム上のさまざまな考慮事項のバランスが取れたソリューションに向けて改良作業を繰り返すことで、Rational Requirements Composer は、チームが、製品品質の改善をもたらす、市場投入までの時間を短縮でき、開発ライフサイクル全体を通じてビジネス目標とITソリューションの合致を維持するソリューション要求をデリバリーできるようにします。

オープンでコラボレティブなプラットフォームを活用して合意を形成

要求定義プロセスが望ましい結果を生むためには、組織を中心に置き、ビジネス・ニーズについて合意を得る能力が大きな課題となります。複数の利害関係者のニーズを満たすためには、継続的かつ効果的に対話を行い、情報およびコミュニケーションのギャップや、プロジェクトを遅らせたり、脱線させたりする可能性のある考え方の違いを克服する必要があります。

こうした課題に対処するために、Rational Requirements Composer は、チームのコラボレーションのための Web 2.0 ベースのアプローチと、ワークスペース、情報、およびディスカッション・スレッドの共有を組み合わせています。とりわけソフトウェア開発プロセスに適している Rational Requirements Composer は、カスタマイズ可能でセキュリティーも充実したプロジェクト・ビューをチーム・メンバーに提供します。チーム・メンバーは、注目する必要がある新しい成果物、コメント、および要求に関するリアルタイムの情報をこうしたビューから得ることができます。現在の要求セットを管理し、追加の要求情報について対話できるため、チームの洞察力と制御能力が高まります。

Rational Requirements Composer を使用すれば、現在取り組んでいる作業に関して他の関係者と直接情報を交換でき、成果物、要求、または関連アセットに対するどのような変更についても、利害関係者およびチームメイトに容易に最新情報を伝えることができます。こうしたオープンな対話により、チームは、ビジネス・ニーズに注目し続けることができ、対立を克服して共通のビジョンを構築できます。



要求情報は、さまざまな方法で表現できます。Rational Requirements Composer は、入り組んだ情報を取り込み、関連付けて要求を定義できるようにします。

ビジネスおよびテクノロジーの専門家のコラボレーションをサポート

バンドの場合と同じように、1人1人が特定の関心、問題、能力を持つ複数のプロジェクト利害関係者をまとめる鍵は、それぞれが理解できる方法を使用しながら、全員が同じ情報を見ているように徹底することです。要求を引き出し、練り上げ、定義するために利害関係者がさまざまな視覚的技法およびテキスト技法を使用した場合、チームは、同じ要求ソリューションを異なる視点から検証することができます。Rational Requirements Composer を使用すると、チームは、リッチ・テキスト文書を記述したり、ビジネス・プロセス・ダイアグラムやユースケース・モデルを作成したり、ユーザー・インターフェースをスケッチしたりできます。

また、こうした成果物を絵コンテやシナリオにまとめて、利害関係者が影響や変更点を理解できるようにすることができます。

すべての成果物とその要素は、他の成果物や要素に関連付けることができます。そのため、入り組んだ要求情報をシナリオにまとめて、ビジネス・オペレーション、ユーザー・エクスペリエンス、(プロジェクトがテクノロジー開発またはソフトウェア開発の場合は) IT システムに対するソリューションの影響を示すことができます。要求のコンテキストは、共有用語集、優先順位付けがなされたコメント・スレッド、そして任意の要素にリッチ・テキスト、イメージ、ハイパーリンクなどでより詳しい注釈を付ける機能により、一層充実したものになります。

また、Rational Requirements Composer は、Microsoft® Office 文書をホスティングし、そうした文書を成果物にリンクしたり、成果物を文書に埋め込んで、簡素化され、視覚的にも優れた要求定義を作成できます。こうした広範で柔軟なアプローチによって、チームは、世界中のどこにいても、コラボレーションし、不明点を明確化して、迅速に合意に達することができるため、すぐさまビジネス主導型のアーキテクチャー、コード、テスト計画、そして最終的にはソリューションの開発に取り掛かることができます。

情報の編成、対話、検索を簡素化

たとえユーザーおよびプロジェクトを横断してリッチな情報を複数のフォーマットで取り込んだり、関連付けたりする機能が強力でも、そうした情報を編成、検索、管理する同じぐらい強力な機能がなければ、チームが成功し続けることはできません。Rational Requirements Composer は、すべての要求入力を管理するための単一の場所を提供します。ユーザーは、この場所で情報や成果物を保管したり、タグ付けやリンク付けを行うことができます。

Rational Requirements Composer には、大量の要求情報をナビゲートできる堅固な検索およびフィルタリング機能が備わっています。タグやフィルターを利用することで、ユーザーは、関連情報を容易に検索したり、成果物、要求、コメント、ユーザー、プロジェクト間の関係をナビゲートしたりすることができます。

チームは、情報の一元化リポジトリを構築するにつれて、現在のプロジェクトのためのみでなく将来の仕事に備えて未加工の資料をまとめ、再利用可能な要求情報を作成できます。そのため、毎回、要求情報を再作成する必要がなくなります。Rational Requirements Composer を使用すると、ユーザーは、プロジェクトまたはユーザーに固有のビューを介して、最新のコメント、要求、成果物などの更新された情報にアクセスできるため、現在の目標に注目することができます。Rational Requirements Composer は成果物の変更履歴を保存しているため、チームは、必要に応じて、以前のバージョンの成果物や情報にすぐに戻ることができます。

組み込みのプロセス・ガイダンスを提供

Rational Requirements Composer には、組織が新しい機能を採用したり、実証済みの成功パターンを利用したりするのを支援するプロセス・ガイダンス機能も備わっています。また、すべての組織が同じであるとは限らないため、Rational Requirements Composer は、特定のプロジェクト・ニーズや組織のニーズを満たすために、組み込まれたプラクティスの内容に対するカスタマイズをサポートしています。すぐに使用可能な複数のプロセスから開始し、稼働中にルールを定義、改良することができます。

Rational Requirements Composer を使用すると、チームは、要求の繰り返し作業の短縮、コラボレーティブな技法や視覚的技法の採用、利害関係者による検証の迅速化といった、ハイパフォーマンスな開発チームにとって基本となる原則を採用できます。カスタマイズ可能なプロセス・ガイダンスは、ほとんどすべてのソフトウェア・デリバリー・プロセスの要求定義アプローチをサポートします。また、プロセスが柔軟で、簡単に変更できるチームであるか、プロセスに厳密に準拠し、厳しく編成されているチームであるかに関係なく、実質的にどのようなタイプのチームもサポートします。

投資の拡張を支援

しかし、すべてのニーズを満たし、すべての利害関係者を満足させるように見える要求であっても、プロジェクトのライフサイクル全体を通じて適切に管理できなければ、その潜在力が十分に発揮されないことがあります。このような落とし穴を回避するために、Rational Requirements Composer を要求定義および管理ソリューションのコア要素とすることができます。要求情報を開発ライフサイクル全体を通じて管理し、要求情報とチームの整合性を維持するために必要なプロセスを自動化することで、組織は投資を拡張することができます。

Rational Requirements Composer を IBM Rational RequisitePro® と統合すると、要求をプロジェクトのライフサイクルを通じて管理できます。すぐに使用可能な統合を追加で利用することで、Rational 要求ソリューションを、IBM Rational ClearCase®、IBM Rational ClearQuest®、IBM Rational Software Modeler、IBM WebSphere® Business Modeler、IBM Rational Quality Manager といった他の多くの IBM ソリューションと連携するように構成できます。

Jazz テクノロジー・プラットフォームの活用

Rational Requirements Composer は、コラボレーティブなソフトウェア・デリバリーのための次世代プラットフォームである IBM Jazz™ テクノロジーに基づいています。Web テクノロジー、Open Service Gateway initiative (OSGi) Alliance 標準、および Eclipse テクノロジーに基づいて構築された Jazz プラットフォームは、ソフトウェア・デリバリーのコラボレーション、生産性、透明性を高めるように設計された、拡張可能なアーキテクチャーを提供します。グローバルなチームのニーズを考慮している Jazz プラットフォームは、人、プロジェクト、プロセスへの配慮を自動化と組み合わせ、ソフトウェアのライフサイクルを加速化し、プロジェクトのガバナンスを改善します。

詳細情報

IBM Rational Requirements Composer の詳細については、IBM 担当員または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、以下にアクセスしてください。

ibm.com/jp/software/rational/products/requirement/rrc/

Jazz プラットフォームを構築するオープンな開発プロジェクトの詳細については、以下にアクセスしてください。

ibm.com/jp/software/jazz



お問い合わせは、IBM ビジネス・パートナー、製品販売店、弊社営業担当員または、ダイヤル IBM (0120-04-1992) へ。受付時間：月～金 9:00～18:00（祝日 12/30～1/3 を除く）携帯電話でおかけのお客様は下記の電話番号でご利用ください。ダイヤル IBM 03-6220-8002（この場合通話料金はお客様のご負担となります。）

© Copyright IBM Corporation 2008

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木 3-2-12

Produced in Japan
2008 年 12 月
All rights reserved

IBM、IBM ロゴ、ibm.com および Rational は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。これらおよび他の IBM 商標に、この情報の最初に現れる個所で商標表示（® または ™）が付されている場合、これらの表示は、この情報が公開された時点で、米国において、IBM が所有する登録商標またはコモン・ロー上の商標であることを示しています。このような商標は、その他の国においても登録商標またはコモン・ロー上の商標である可能性があります。現時点での IBM の商標リストについては、ibm.com/legal/copytrade.shtml の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

本書に記載の製品、プログラム、またはサービスが日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、プログラム、またはサービスについては、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。

本書に含まれる情報は、情報提供のみを目的に提供されています。本文書の情報の完全性および正確性については最善の努力を払いましたが、本文書の内容は法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負うことなく、現存するままの状態提供されます。また、本文書は IBM の現在の製品プランまたは戦略に基づくものです。この製品プランまたは戦略は予告なく変更されることがあります。IBM は本文書およびその他関連文書の使用に起因するいかなる損害についても責任を負いません。本文書に含まれる内容は、IBM またはそのサプライヤーもしくはライセンサーによるいかなる保証または説明も提供する、またはその効果があると思なされるものではなく、また IBM ソフトウェアの使用について規定し適用される使用許諾契約書の条項を変更するものではありません。